

まちで見つけた

障がい者専用駐車スペース



▲イオン小郡

多くの駐車場には、障がい者専用の駐車スペースがあります。障がい者の方がスムーズに乗り降りできるように、一般の駐車スペースに比べて広めに作られています。また、建物の入り口付近にあり、車から降りての移動ができるだけ少ないようにと考えられています。しかし、一般の方が駐車しているのを見かけます。この駐車スペースの意味を知ること…。

人権のまちづくりふれあい公園

同和問題をはじめとするあらゆる人権問題を解決していく趣旨のもと整備された公園です。多目的トイレの設置や公園全体が段差のないバリアフリー化、車いすからも登って遊べる遊具など、誰でも安全に安心して利用できるように考えられています。



車いすからも登れるよう低くなっています。

願いが込められた石碑



最上段の商品を低い位置でも操作できる商品選択ボタン、商品がおける手すり付きテーブル



▲小郡市役所

自動販売機



スムーズに操作できるようステージが設けられた紙幣挿入口、複数投入できる硬貨投入口

片手で握って取り出せる受け皿タイプの釣銭返却口

車いす利用者など全ての人が無理なく使えるよう工夫された自動販売機です。

こんなところにも!?

普段何気なく使っている物の中にも、多くの方が快適に暮らすために考えられたデザインが施されているものがあります。例えば、シャンプーの容器の側面にある凹凸。これは、目が不自由な方が手で触ってシャンプーかリンスか判断できるように考えられたものです。目をつぶった状態でも判断できるので全ての人にとって便利なものです。



また、お酒の缶には点字で「おさけ」と書いてあり、ジュースとお酒を間違えないように考えられています。その他にも、電卓や電話機の中心にある「5」などにも突起があり、目が不自由でも分かりやすいように工夫されています。



“バリアフリー”

障がい者のための国際シンボルマーク



障がいのある方が利用しやすい建物や施設であることを示す、世界共通のマークです。車いす利用者だけでなく、すべての障がい者のためのマークです。

白杖SOSシグナル」普及啓発シンボルマーク



白杖を頭上に掲げてSOSのシグナルを示している視覚に障がいのある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。

耳マーク



耳が不自由なことを表すマークです。聴覚障がい者は見た目には分かりにくいために、誤解されたりして不安を多く抱えています。このマークを掲示されたら、相手が「聞こえづらい」ことを理解し、コミュニケーションの方法など配慮しましょう。

ヘルプマーク



内部障害や病気など、援助や配慮を必要としていることが外見上分からない人や上手く伝えられない人が身につけておくことで、周囲の人に気づいてもらい、援助を得やすくなるよう作成されたものです。

マスクを付けられない人の意思表示カード



新型コロナウイルス感染症対策としてマスク着用が当たり前になっていますが、感覚過敏などでマスクを付けられない人もいます。「マスクを着けていないのも何か事情があるのかも」と考えてもらうために考案されたカードです。

マナーアップキーホルダー



本来エスカレーターは止まって乗るものですが、実際は「左側は止まって右側は歩く」という習慣が根付いています。しかし、左半身に麻痺がある人は右側の手すりに掴まる必要があります。このような人が「けがや病気が理由で左右いずれかに寄って立ち止まっている」と意思表示するためのマークです。

施設や物など、これまで障がいのある人にとって「物理的なバリア」となっていたものが、バリアフリーによって随分と“生活”しやすくなったと思います。しかし、障がいのある人や障がいのある人のための施設・物に対する偏見や無理解・無関心などの「意識上のバリア」によって、まだまだ“生きづらさ”はあると思います。一人ひとりが、バリアを感じている人の身になって考え、行動を起こす「心のバリアフリー」を実践することで、本当の意味でのバリアフリー社会につながっていきます。